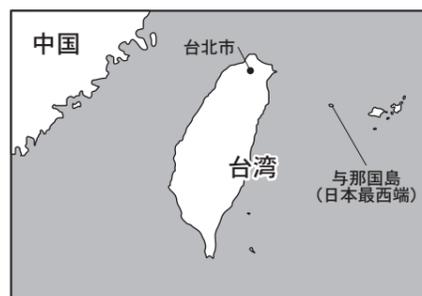


# 美浦中学校二年生が 台北市立敦化中学校を訪問



今年で24回目をむかえる「美浦少年のつばさ事業」は、海外の同世代の人々との交流を通じて国際感覚を備えた美浦村の将来を担っていく人材の育成を目的に、美浦村人材育成推進協議会が毎年行っている事業です。今年8月1日から8月6日までの計6日間、美浦中2年生16名を含む美浦村訪問団が台湾を訪れました。

今年も中学2年生の団員募集には多数の応募があり、抽選により16名の団員が決定しました。団員の皆さんは、普段の生活との違いに戸惑い、言葉の壁にぶつかりながらも、台北市立敦化中学校の生徒との交流を通じてかけがえのない友人ができました。台湾の伝統と文化を身近に体験した6日間でした。

### ◇引率者

《敬称略》

- 団長 沼崎 光芳(美浦村議会議長)
- 小松 正樹(美浦中学校校長)
- 福田 孝(美浦中学校教諭)
- 藤崎 佐保里(美浦中学校教諭)
- 平野 芳弘(役場企画財政課長)
- 元井 絹代(語学教師・通訳)



訪問団団長  
美浦村議会議長  
沼崎 光芳

このたび、24回目の「美浦少年のつばさ事業」において、美浦中生16名と引率者6名の総勢22名で結成された訪問団の団長として参加させていただきましたこと、訪問団を代表して皆さまに簡潔にご報告させていただきます。

私たち訪問団は、台北市立敦化中学校の皆さんとの交流を中心とした日程で台北市を訪れ、有意義な6日間を過ごしてまいりました。今年5月に敦化中生(今回の交流に参加した学生とは違う学生です)が初めて美浦中に来校して交流をした経験もあり、敦化中生との交流は一層充実したものとなりました。両中学校の子どもたちは片言の英語や台湾語、漢字の筆記、最後はジェスチャーを駆使してお互いに気持ちを伝え合い、相手の話を理解しようとしていました。

最後に、訪問団が全員無事に帰国できたことは、団長として一番の喜びです。参加された美浦中生、そして引率者各位をはじめ、保護者の皆さま、関係各位に感謝申し上げます。



市川 実波  
(2-A)

私は、今回の少年のつばさ事業に参加し、台湾の文化に触れたり、敦化中学校の方と交流することができたことを、とてもうれしく思っています。

敦化中学校では、皆で「きらきら星」を演奏しました。私は大阮という楽器を使いました。とても難しかったけれど、ちゃんと演奏できたときは、教えてくれた敦化中学校の方と心が通じたと感じることができ、敦化中学校の方と過ごした時間はとても楽しく、あっという間でした。

6日間の研修では、とても貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。



石島 颯太  
(2-B)

僕は、台湾でたくさんのことを学びました。まず1つ目は、敦化中生との交流です。日本と台湾、それぞれ異なる国なので、言葉も違います。しかし、身振り手振り等で、お互いコミュニケーションをとることができました。2日間という短い時間でしたが、とてもよい交流ができたと思います。2つ目は、台湾文化や歴史についてです。故宮博物院や林本源園邸等に行き、台湾と中国とのつながり、台湾の発展の歴史を知ることができました。

台湾で学んだ異文化コミュニケーションの大切さを忘れず、これからの生活に生かしたいです。

今回の少年のつばさで、たくさんの良い思い出ができました。その中でも一番心に残ったことは、交流会です。

敦化中に着くと演奏で歓迎してくれました。敦化中の人達は明るかったです。学校の紹介や日本の文化をしっかりと伝えることができたと思います。また、学校の探検するゲームではお互いのコミュニケーションを深めることができ、友情を育むことができました。交流会の最後には台湾の国楽を教えていただき、一緒に合奏をしました。色々な経験の中で友情に言葉の壁や国境がないこと等を友達にも伝えていけたらと思います。



塚本 侑聖  
(2-B)

私達16名は、美浦中の代表、そして日本代表として台湾との国際交流で文化や歴史等日本では体験できなかったことをこの5泊6日の旅で学び、親しむことができました。1日目の私たちはまだ慣れない様子で不安なところもあり、体調管理等が困難な状況で大変でした。2日目を過ごすにつれて、台湾の人とも打ち解け合い、互いに優しい言葉をかけ合うようになりました。自分達が日常で使っている言葉は、相手には伝わりません。だけど、互いに伝え合おうとしている気持ちは言葉がなくても心で通じ合っているのではないかと感じられました。



安瀬 夢歌  
(2-B)



橋本 香菜  
(2-B)

私は、台湾の敦化中学校との交流会で思い出に残ることが3つあります。1つ目は、互いの学校の様子を分かり合えたことです。生徒の人数は美浦中の約7倍で、校庭も広がりました。2つ目は、夕食を一緒に食べていろいろなことを話せたことです。最初は勇気が出せず、話しかけられませんでした。自己紹介をして声をかけるうちに楽しく交流できるようになりました。3つ目は、交流会2日目の伝統芸術センターでのDIY体験やセンター内を一緒に散策したこと。布の染色をしました。たった2日間でしたが、仲良くなれて良かったです。



葉梨 拓摩  
(2-B)

僕は、8月1日から6日まで台湾へ研修に行かせていただきました。この6日間で僕が一番印象に残っていることは、敦化中との交流です。校舎は美浦中よりも遥かに大きく、約8千坪もありました。最初はとても緊張していました。でもお互いにプレゼント交換をしたり、学校の紹介をしたり、一緒にご飯を食べたりして交流を深めました。中でも僕が一番印象的だったのは、きらきら星と一緒に演奏したこと。日本のものと少し異なる楽器を使いました。たった2時間で皆上手に弾けるようになりました。言葉はなくても心が通じた瞬間でした。



私は、今回の敦化中生との交流を通して、大切なのは言葉でつながることではなく、心でつながることなのだと思います。表情であったり、ジェスチャーであったり、言葉以外のものでも楽しく交流をすることができました。それを実感したのは、敦化中生と美浦中生が台湾の伝統楽器を使って合同で演奏した「きらきら星」です。言葉がほとんど通じない状況の中で演奏の仕方を教えてもらいました。本番でもいい演奏をすることができ、2つの国が重なった瞬間だと思いました。改めて、心が伝わる大切さを知ることができとてもいい経験になりました。



飯田 千尋 (2-D)

この少年のつばさでの台湾訪問は、僕にとっていい刺激になりました。まず、敦化中生と学校を紹介し合いました。僕たちの中学校より何倍も大きく、生徒がたくさんいました。部活は、美浦中にはないユニークな部活もありました。1日目は、敦化中生とはあまりしゃべれずに終わってしまったけど、交流2日目は、芸術センターで染め物をして、終わった後は、敦化中生と一緒に行動しました。バスの中ではトランプをして仲良くなりました。もっと積極的に話していればより絆を深められたと思います。



奥野 智元 (2-D)



齊藤 武蔵 (2-D)

僕は、台湾に行ってさまざまなことを学びました。敦化中との交流では、最初はうまく会話もできずに、無言の時間ができたりしたけど、だんだん打ち解けてきて、言葉は伝わらないけど、一緒に笑ったり、楽しんだりすることができてよかったです。仲良くなるのに、言葉はいらないとわかりました。台湾の文化に興味を持ったのは建物です。建物は、中国風のものがとても多かったです。屋根の上の竜の指の数で、地位等も決まっていると聞いてから、指の数を数えたりするのが楽しかったです。台湾の建物はとても派手で、格好よかったです。



富田 有芽 (2-D)

敦化中生との交流では、学んだことがたくさんありました。1つ目は、言語の違いがあっても人と人とはつながることができるということです。台湾の楽器を教えてもらったり、天燈を一緒に上げたりすることで言葉は通じなくても仲良くなることができました。2つ目は、たくさんの人と関わることは自分を高めることにつながるということです。この6日間、人と関わることで、色々な考えを持った人がいることやその考えを認めあう大切さを知ることができました。台湾で学んだことを言葉だけでなく、自分の行動で示していきたいと思っています。



工藤 駿斗 (2-C)

僕は、台湾に行って、学んだことがたくさんありました。まずは、台湾についての歴史等です。故宮博物院で台湾の歴史をたくさん学ぶことができました。次に、敦化中との交流で学んだことは、言葉がなくても心があれば通じ合えるということです。最初は全く話せず苦労しました。ですが、ジェスチャー等を交えて共通語の英語を使いながら、何とかコミュニケーションを取ろうとした結果、最後に別れるときには、敦化中生とたくさん話せるようになりました。この貴重な体験をこれから活かしたいです。



井川 恵菜 (2-C)

私が台湾研修で学んだことは、たくさんの人と繋がることの大切さです。1日目は緊張していて、自分からはあまり話しかけられませんでした。敦化中生が気軽に話しかけてくれ、自分も気持ちを伝えてみようと思いました。自分から話しかけてみて気持ちを伝えることで、どんな仲良くなれてよかったです。自分から気持ちを伝えることや、繋がる大切さを知りました。あと、台湾の文化は日本の文化と全く違うので、台湾についてたくさん知れたし、親しみを持つことができました。学んだことをこれからの生活に活かしていきたいです。

私が台湾で学んだことは、国が違って友達になれるということです。言葉は通じなくてもジェスチャーや笑顔で接すれば相手も分かるかと必死になって笑顔で話してくれます。私は心を開いてこんなにも仲良くなれたことが、心から嬉しかったです。一緒にご飯を食べた時や買い物をした時も楽しませようとしてくれ、思いやりの心が伝わってきました。私も彼女たちのようになりたいと思いました。短い6日間の中で私は、沢山の思い出ができ、沢山のことを学び、沢山のひとと絆を深めることができました。本当に充実した6日間を過ごせました。



織 愛結美 (2-C)

今回、美浦少年のつばさを経験し、学んだこと、今後に活かしたいことがいくつかあります。1つは、台湾の中学生と交流をして思ったことです。初日、緊張してあまり話せなかった自分に、英語やジェスチャーで話しかけてくれてとても心の支えになりました。国は違って言葉が通じなくても一生懸命に接してくれてとてもうれしかったです。また、台湾の文化についても教えてくれてとても勉強になりました。これから、敦化中生を見習って、色々な人との友情の輪を広げていきたいです。



鷹巣 剛 (2-C)



大林 幸乃丞 (2-D)

僕は美浦少年のつばさ事業で台湾へ研修に行きました。初めての海外で緊張していました。台湾の敦化中生との交流では言葉は通じませんでした。ジェスチャー等を使って少し会話したりすることができました。そして、1日目には敦化中生の人達と一緒にきらきら星の演奏をしました。中国の方の独自の楽器を使いました。少しの時間でかなり良い演奏をすることができました。お寺では台湾の宗教に関することやお寺での礼儀や歴史等を知ることができてよかったです。台湾で学んだことを次に活かしていきたいです。



田崎 深有希 (2-C)

私が台湾研修で学んだことは、人とのつながりが大切だということです。研修の1日目は、緊張していて「できるだけ上手に話せるようにしよう」と思っていました。しかし、2日目、3日目の敦化中生との交流会では、どれだけ上手に話せるかではなく、どれだけ気持ちが伝わるかということが大切でした。私は人と話す時に、伝わりやすく話そうとして考えて、黙ってしまうことがあります。けれども、たくさん話したほうが相手にも伝わりやすいということがわかりました。このことを、友達や外国の方と話す際に、活かしていきたいと思っています。